

東京都精神保健福祉家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション301

TEL/FAX:03-3304-1108

<http://www.ttsukushi.sakura.ne.jp/>

発行者 眞壁 博美

2017.2.15 第319号

つくしだより



平成29年2月号

「マル障を精神障がい者にも・・・」
この署名活動でみてきたこと

都連副会長 本田 道子

あわただしくは始まり、そしてやっぱり最後の最後まで忙しくなりました。今回の署名活動でした。にもかかわらず、皆様がたの積極的な活動の成果で一万三千余の署名が集まりました。

わずかに一か月強という日数を考えるとすばらしい成果だと思えます。本当におつかれさまでした。

それを受けてつくし会の役員も頑張りました。

都議会の各会派の皆様の賛同を得るべく毎日のように都議会の議会棟に足を運びました。アポをとって作った資料をもち、各会派の先生たちについていねいに説明をしました。

精神障がい者には福祉のサービスが十分に届いていないこと、今まで家族が「介護」とともに「経済的なことも含め全て負担」してきたこと、のさまざまを都議会の先生たちに膝をつき合わせて説明しました。

今までこんなふうに話を聞いてもらうことはなかったように思います。要望書の時での机をはさんで、では

ないなにかをお互いに感じられたと思います。

その結果自民党、公明党をはじめとして共産、民進、都民ファースト、生活者ネットワーク、民進党都議団、無所属の先生たちなどほとんどすべての会派の先生たちに紹介議員になっていただきました。本当にありがたいことでした。

しかし、請願署名を届けてそれで終わりではありません。

むしろ、これからの活動が大切になります。皆様にはもうすでにこの請願のバックアップのために各市区町村議会への「陳情」のお願いをしました。早速に動いて頂いており感謝しております。

都議会では厚生委員会が2月17日午後にありますし本議会が3月にあります。請願が全会一致で採択されることを祈っております。

さて、問題はそれからなのです。福祉保健局に予算を立ててもらおう必要があります。29年度予算はもう決まっておりますから、再来年度の30年予算になるのか、それとも・・・(?)行政への働きかけが必要です。まだまだ道半ば、です。

ただ今回の署名活動ではこんな変化がありました。

街頭署名にNHKが取材をした翌日に東京新聞が取材に来てくれました。翌日の新聞に大きく精神障害の問題がのりました。NHKの放送もありました。精神障がい者の年金問題の研究者の日本福祉大学の青木教授が全国の仲間と署名活動への協力を呼びかけてくれて全国からの署名が届きました。

そしてなによりも一番肝心だったのは、この請願に「一緒に取り組もう」と声を出してくれたのは当事者の会の方たちやその支援者の方たちなのです。みんなが手をつないで一緒に動き出したのです。

それが「東京マル障の会」です。

季節は立春をむかえました。間もなく「春」です。

私たちみんなのがんばる力で「東京の春」の足音は力強さを増して聞こえる今年の春です。



民間事業者への交通運賃割引要請行動 都連会長 眞壁 博美

昨年5月、62万筆を越える「精神障害者の交通運賃に関する請願署名」を国会に届けました。残念ながら、衆参両院の国土交通委員会で不採択となりました。しかし私達は粘り強く引き続きこの問題に取り組みます。

国会への請願行動だけでなく、民間交通事業者への要請行動も行うという方針を持ち、具体的に行動を起こしていこうと、9月の理事会で決定しました。そして、関東ブロックの他の県連会長に東京つくし会から呼び掛け、1都6県が分担・協力して、大手民間鉄道事業者と東日本高速道路本社あわせて16社を訪問し、要請することに決まりました。

東京つくし会は、JR東日本本社、京王電鉄、東急電鉄、小田急電鉄、東京地下鉄、東日本高速道路本社の6社を受け持ちました。多くの私鉄はアポイントが取りやすかったのですが、JR東日本はガードが堅く、他の障害者団体の役員の紹介を取り付けて、やっと要請が出来ました。11月半ばから約2ヶ月かけて、要請行動が終わりました。

JR東日本本社で、担当者が話したことは①国鉄を分割・民営化する時に、国鉄時のものをすべて引き継がなければならなかったために、身体・知的の方達の運賃割引き

度を引き継いだが、このようなサービスは、本来国がやるべきと考える。

②障害者への割引サービスは、一般の方の運賃を削ってそれにあてているが、それに疑問を持つ。

③全国のJRは1つにつながっているのに、〇駅から先はダメとはいえない。全国6つの会社が一齐にやる必要がある。

他の私鉄事業者も、他社と横並びにしたいという意向が強かったようです。

私は、JRは、国鉄から資産を無償で引き継いだのですから、「公共性」も引き継ぐのは当然ではないかと思うのですが、皆様はどうお考えになりますか？

桜ヶ丘記念病院見学会の報告

多摩地域ブロック12家族会21名が参加！

都連副会長 植松和光

一昨年の駒木野病院に続き二回目の病院見学会は多摩市にある桜ヶ丘記念病院です。昭和15年に開設され、全国でも珍しい社会福祉法人立の精神科病院です。最寄り駅の京王線聖蹟桜ヶ丘駅から歩いて13分、広大な敷地に恵まれ自然豊か中にありました。病床数⁴⁶⁷床、8病棟、職員数³⁵⁸名（精神科医常勤21名・非常勤9名、看護師等¹⁴⁹名、精神保健福祉士16名、作業療法士9名、臨床心理士6名、介護福祉士

19名等）

私たちが訪れたのは昨年12月12日（月）の午後でした。まず、病院の施設の案内をしていただき、最初に見せていただいたのは保護室を含む急性期治療病棟でした。病室は明るく清潔で患者さんが治療に専念できるように思われました。現在はほぼ3ヶ月程度の入院を目的に治療をしているそうです。次の認知症治療病棟はほぼ、いつも満床の状態が続いているとの事でした。作業療法センターでは、患者さんたちが、ぬりえ、新聞記事の切り取りなどを作業療法士さんの指導で行っていました。デイケアセンターでは入院・通院患者の方を対象にした絵画、器楽、コーラスグループや臨床心理士によるSST、自分の病気の学習などを行い、より良い生活力の向上を目指しているそうです。施設見学の後は、岩下覚院長の話がありこれからの病院の展望と課題を話してくれました。

*急性期医療の更なる充実として、東京都精神科救急医療システムへの積極的参画

*病棟（病床）の機能分化の方向性を検討していくとして長期入院患者の地域移行に向けた具体的方策の検討、アウトリーチ、就労支援等退院後の地域定着支援体制の確立等。

最後に家族心理教育について佐藤健徳先生からお話があり、とても参考になりました。



「みんなねっと関東ブロック会長会議」に出席して（1月30日）

都連副会長 松沢 勝

幹事茨城県連小池会長の挨拶で始まったが、ブロックとしての統一行動が集約されつつある。即ち、JR等の交通費助成問題と医療である。

JR等の交通費助成問題について、都連眞壁会長からは難関先であるJR東日本へのアプローチで身体障害者団体の役員の紹介で、課長クラスの下丁寧な対応を受けたことや、千葉県連が東日本千葉支社で広報室長まで届いたことが紹介された。また、私鉄関連では、西武鉄道へ地元出身の衆議院議員を通したら西武グループトップの後藤高志氏に繋がったケースが紹介されたことで、少しずつ核心に迫る動きに出席者は元気づけられた。

マル障（又はマル福）問題では、都連植松副会長から今回の運動の特徴と経過説明がり、本会議の午前中に一万二千筆の署名を届けたことと、都議会十党派のうち自民を含む八党派の賛同を得ている旨の力強い発言があった。同時に、今回の請願をバックアップするための東京都下全区市町村での陳情運動の動きも紹介された。引き続き、茨城県連から「マル福」（医療福祉費支給制度）の他障害並の支給改善運動が紹介された。即ち同県での身体障害者へのマ

ル福適用率五十一%、知的障害者三十%に対し精神は五%弱である。

各県連とも以上の二大テーマのほか、第三の問題として「家族会活動の活性化」問題が真剣に採り上げられていた。なお、次回平成二十九年度の関東ブロック大会は、埼玉県連主催で、十一月二日（木）さいたま市大宮ソニックセンターで開催されることになった。



平成28年度第3回西ブロック会議の報告

都連副会長 川崎 洋子

「お寒い！」と思わずコートの襟を立ててしまふような風の冷たい1月21日、高円寺障害者交流館に、9家族会から24名が参加しました。

茶菓子が用意され、明るいにぎやかな声に誘われるように会場に入りしました。

最初に都連の当面の動きとして「医療費助成請願署名」について、担当理事から説明がありました。新宿駅西口の署名運動には家族会、当事者、支援団体などから50名を超える参加があり、2時間ほどで400筆をこえる署名が集まりました。又、東京新聞の取材を理事の轡田氏

が受け、紙面に大きく掲載されたことが報告されました。

次に、都連の財源について、提案がありました。現在の登録会費制度の在り方、登録会員の減少、単会別の登録会費の格差（登録数は単会にゆだねられている）などから、安定的な財源確保が難しい。このままだと基本的財政基盤を揺るがしかねない。今後の都連の財源確保をどうしたらいいかを、これから1年、2年かけて話しあい検討しようということに成りました。どこの単会も抱えている財政問題ですが、都連を支えるために工夫しなくてはと、暖かな応援の声に、理事としてうれしくおもいました。

また、なかなか決まらない理事を増やす件ですが、難しいですね。お声を掛けさせていたただいた方は、皆さまご無理のようでしたが、現状の少ない理事での活動には、同情いただきました。でも、感情論だけではすみません。どうぞ、協力できる方募ります。よろしくお願いいたします。

最後に各単会からも、区議会に「医療費助成」について、陳情書提出のお願いがありました。次回の当番は、さくら会と太陽の会です。



「登録会費」を減らさないで！

会計担当 松原のり子

皆さんは「登録会費」という言葉を聞いたことがありませんか。聞いたことのない方が多いと思います。実は各家族会がつくし会へ納めるお金のことです。

つくし会は現在52家族会が加盟しており、52家族会の登録会費によって運営されています。登録会員1人分の登録会費は年間2400円です。A家族会の登録会員が5人だとすると、登録会費は1万2千円となります。1年間に1万2千円をつくし会へ納めるわけです。登録会員数を何人にするかは各家族会が決められています。つくし会の財政の柱はこの登録会費で賄われています。

ところがここ10年くらいの登録会員数の推移を見てみますと、年々減ってきています。この7年間で230名（登録会費552000円）が減っています。それは各家族会の会員数の減少や、高齢化による活動の衰えなどによるものと思われます。登録会費の減少はある程度やむを得ないことではあるのですが、つくし会の精神障害者運動における役割をお考えいただき、各家族会の苦しい事情もあるでしょうが、なんとか減らさないでほしいのです。ぜひとも会員数を増やしてほしいのです。皆様のご理解とご尽力をお願いします。

☆賛助会費

高円寺クリニック

ありがとうございます。

5000円

講演会のお知らせ

☆2/24(金)なぜ、自死の少ない街には立ち話をするひが多いのか
講師:みどりの杜クリニック院長 精神科医/鍼灸師 森川 すいめい 氏
場所:都庁第一本庁舎5階 申込不要 主催:東京都/都精民協 問合せ ☎042-345-2077

☆3/3(金) 家族それぞれの自立をめざして～親あるうちに～
やきつべの怪診療所理事 児童精神科医 夏莉 郁子氏の講演及びシンポジウム 要申込
会場: 帝京平成大学・沖永記念ホール(池袋) 主催:みんなねっと ☎03-6907-9211

☆3/11(土) 人とのつながりと距離を考える一家族・友人・支援者(仮題)
講師:みどりの杜クリニック院長 精神科医/鍼灸師 森川 すいめい 氏
会場:新宿区立障害者福祉センター 主催:新宿フレンズ ☎03-3987-9788

☆3/16(木) 新「東京都人権プラザ」について、障害者差別解消法に係る都の取組について
会場:多摩障害者スポーツセンター(国立市)
主催:東京都障害者社会参加推進センター ☎03-5261-0729

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。

編集後記

とある新聞のコラムに「精神疾患と生きる」があり、「こたわる」特性を商売にとあった。Mさんのお話ですが、発達障害で聴覚過敏の彼女は「こたわりが強い」という自分の特性に気づいた。聴覚と同様に敏感な味覚も武器になり、「特性は、仕事に生かせる」と彼女は今も元気に仕事をしているそうです。当初は、あいさつが出来ない彼女でしたが、障がいのことと正確無比な仕事ぶりが評価されたとのこと。

どのような障がいがあっても仕事をしたいという当事者の熱意と当事者を受け入れる仕事場があれば、地域で自分らしく生活出来ると思われれます。経営者の皆さん、ぜひ、当事者の人たちに働く機会を支援して下さい、当事者が働きやすい労働時間の短縮雇用も広がってほしいと願います。

息子は、現在、アパートで一人生活をしており、地域の生活支援・就労支援を受けながら週5日間働いています。仕事はきついが友達も出来、楽しいと話しています。2月になり、次第に暖かくなりました。心の春も来てほしいです。

都連理事

安藤万寿代



つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。